



「素敵な私をありがとう」(T. Y.)

私がセールスを始めたのは今から二十一年前の事。二十才で結婚し、三年の月日が流れていた。一才の娘の育児が思うようにいかず、毎日がイライラの連続だった。自分の嫌な性格を棚に上げ、あの人のこういう所が嫌い、この人のこういう性格が許せないなどと人を毛嫌いし、誰とも上手く付き合う事が出来なかった。そしていつも子供と二人ポツンとしていた。私がそんなふうだから主人の浮気が続き、相談する人もなく、ただ死にたいとそればかりを思っていた。そんな時「一緒に仕事をしてみませんか？」と誘われたのが、化粧品ของセールス。こんな性格の私が見ず知らずの方のお宅に行つて話をするなんて、絶対出来っこないと一度はお断りしたものの、このままでは私はおかしくなってしまう。何でもいいから今の生活から脱け出したいという思いで、思いきつてセールスをやってみる事にした。

それからの毎日は、自分でも褒めてあげたいくらい働いた。夫が外で何をしていようと気にするな。子供と仕事の事だけ考えていればいいんだと自分にいいきかせ、今まで溜まっていたものが爆発したかのように働いた。夢の中まで仕事が出てくる





毎日。疲労と神経の使い過ぎで体重は落ち、胃は常に痛むようになったが、今までの一人つきりで悶々としていた日々とは全く違う充実した心地好い疲れだった。お客様の所からの帰り道、ひどい暴風雨に見舞われ、ずぶ濡れで帰った私を、すでに仕事を終えて帰っていた仲間が心配し、タオルを持ってお店の前で待っていてくれたあの日。所長さんの家に仲間全員子連れでおじやまし、バーベキューをして大騒ぎをしたあの日。辛いのはみんな一緒。仕事でどんなに嫌な事があっても同じ苦労をしている仲間がいたから頑張れた。

そして、二年、三年と月日が経ち、良いお客様に沢山出会う事が出来た。

「おいしいカレーライス作ったからお昼食べて行ってね」

「旅行に行ってきたの。これお土産ね」

「主人が浮気していてどうしていいかわからないの」

楽しい会話の中にも、ご主人との辛く苦しい胸の内を打ち明けて下さるお客様もいた。私なんかこんな大事な話をしてしまったていいのかしらと、戸惑いながらもお客様の辛い気持ちがよくわかり、一緒になって涙を流す事もあった。いろいろなお客様と取り留めのない話をし、泣いたり笑ったりしながら私はどんどん、どんどん





ん“人”が好きになっていった。この仕事をずっと続けよう。このお客様達と一生お友達でいようと思っていたのに、人生はままにならないもので、急に田舎に家を建て引っ越す事になってしまった。

「辞めないで、行かないで」と何人ものお客様が、いいえ、お友達が言って下さった時は、ありがたさと淋しきで涙がとまらなかった。本当にあの時はお客様に申し訳ない事をしたと今でも思っている。

そして頭に白いものがポツリポツリと見え始めてきた今、社訓の「出来ないのはやらないからであり、努力と信念が足りないからである」は、今でも私の人生の教訓となっている。心の奥底まで何でも話せる友達にも恵まれ、三人の子供たちも素直にのびのびと成長してくれた。すっかり親離れをしてしまった子供達を遠くから眺め、今、夫と幸せに暮らしている。もしあの時、セールの仕事の誘いを断って、あの暗い性格のまま子育てをしていたら・・・と思っただけでゾツとする。生きてきて良かった。こんなに楽しい事が沢山あるんだもの。テレビ等で“自殺”の言葉を耳にした時、

「死んじや駄目！死ぬ気があるなら思いきって今の生活を変えてしまいなさい！生





きていれば必ずいい事があるから！」

と私は心の中で叫んでいる。そう、死んではいけないんだ。

「ねえ、お母さん、今の自分をどう思う？」

娘が突拍子もない事を聞いてきた。

「今の私？もちろん大好きよ！」

あの辛く、苦しく、楽しかった四年間のセールス時代よ、

私を救ってくれてありがとう！

素敵な私を作ってくれてありがとう！

【平成八年度・優秀賞】

